

新宮山麓ぐるぐる第186回 行仙詣世回

平成28年3月30日（水）曇

同行 玉岡憲明・玉岡 明

毎日、炬達にくすぶつていゝ裡を且兼收て
 息子は「行仙えでも行つて来るか」と誘いが
 かゝつた。まるで牛に引かれて善光寺詣りで
 ある。体調は仲々回復しないが、折角声とか
 けてくれたので重い腰を上げた。前回の行仙
 行きは昨年5月21日であつた。
 起床の野、出発の時の行動計画で、なま

った体には可成り強行である。登山口にはク
 時15分に登り出した。沖崎さんが押し進めて
 くれていゝるモノレールの工事の赤べんキの階
 段の近くを甚良として既に始まられていゝた。
 車の音がして電線周遊の方二名が追いつい
 て来て各鉢塔に立寄つて真珠とされる。7い
 つもお世話になる下川原所長さんによろしく
 伝えて周をたいしとお礼を申し述べておさき
 と譲る。行者堂に着いたのは前回同様所乗

01 野回と略々同じ戸時15分であつた。昨年秋に

執行された祝賀会に使った。おひねり、の余
りの一部、三〇〇〇円程と差込箱に奉納して
郵送する。

入口の水槽と炊事場前の水槽にはほぼ水が
溜められていたから、これにも早や水と
溜めるようにせねばなるまい。入口には電源
さんから毎年春秋に寄贈されるカートリッジ
のガスと日じめの木炭、非常食用の缶パン、水
舟の整理と並べて下さっていった。これなども
成る可く早目に管理室に後して日付順に記名
して郵送と区分しておかぬほなるまい。

書架の本といま一度読み直してやるのかあ
まか、果して下として再読出来るであらうか
危しいもの。

大勢の手で回収した松丸太はその後半すか
ずの怪となつている箇所をせしてしまつては勿体
ない。薪に割つて管理棟床下に収納して不
の備えにして貰いたいから、仲々手が廻り兼ね
るのであるうか。

No2
新体制に移ったとは云え、あとかうあとか

らと作業量の方も増えて、一方、若年の能力
 の衰えて来巨。昨今、その力の処理能力の追
 つかぬ状況にみるようだ。さりとて、私自身の
 体力は限界を致して何のお役にも立たず、そう
 ならぬ山からの下りは前回同様、息子は確保さ
 れて又ドタドしく下る。登りよりも下る方が
 可成り体力と消耗する。此等のきなり温帯に
 入浴しても、痲痺は一向に失^うせず、鮎ハシノ個と
 食して早やぼやと虚床に入。た。(息)